

簡易非常食袋の準備・保管について

日時	令和3年4月～
対象者	全学年児童 教職員
具体的取組	<p>1 主旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「簡易非常食袋」を用意することで、防災に対する危機管理能力を育成する。 ○ 万一、災害が発生し、保護者への引き渡しの日没以降になるような場合の非常食として学校に保管する。 <p>2 取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校が用意した袋に、非常食(子どもが食べられるもの)を入れ、学校に持ってくる。 ○ 水は学校が用意する。 ○ 4月に準備し保管していた袋は、9月末に持ち帰り、中身を入れ替えて10月に新しい中身にする。 ○ クラスごとにケースに入れ、保管する。(1～3年は多目的室。4～6年・教職員はパソコン室)
児童の様子	○ 子ども達がそれぞれ好きなお菓子等を選んで、1食分をしのげるくらいの量を用意してきた。全員用意できた。
成果	○ 非常食を用意したことで、災害は遠い所の話ではなく、自分たちの身近に起こるかもしれないものであることを意識できた。
課題	○ 現在まで実際に使う機会がなかったため、改善すべきこと等未知のことが多い。
児童の感想	○ 自分で用意した、保護者が用意した等、様々であった。友だちが用意したものを見て、それぞれの違いが分かり、今度は自分も用意したいなどと話していた。
作成資料	○ 保護者に「簡易非常食」の用意をお願いした文書
写真	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">    </div>